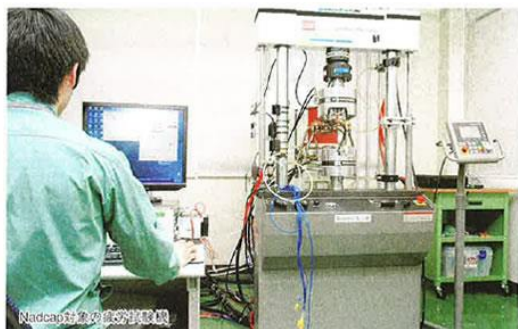


国際特殊工程認証プログラムを取得 航空機関連の売り上げ3年後3億円

Weekly News



キグチテクニクスが取得したNadcapの認定
証書（安来市恵乃島町、同社）

国際特殊工程認証プログラムを取得 航空機関連の売り上げ3年後3億円

キグチテクニクス



材料試験の機械が並ぶキグチテクニクスの工場内

金属などの材料や部品の試験評価を行うキグチテクニクス（安来市恵乃島町、木口重樹社長）は航空機産業に本格参入する。「規格戦略」を推進し、目標としてきた航空機製品の国際特殊工程認証プログラム（Nadcap）を取得。3年後に航空機関連の売り上げ3億円を目指し、海外展開も視野に入れる。

同社は、木口研磨所として1961年に創業し、日立金属向けの顕微鏡ミクロ検査用試料の研磨を開始。高級特殊鋼「ヤスキハガネ」を通じて培った加工技術をベースに業容を拡大し、試験素材の切り出しから加工、試験評価まで、全国でも数少ない一貫受託体制を構築している。

最新鋭の試験機など設備増強を進める一方で、「規格戦略」に力を入れてきた。木口順一郎総務部長は「技術力をPRしようにも、中小企業だとなかなか認めてもらえない。第三者の客観評価が必要だった」と話す。

03年に品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」を取得。09年には、航空宇宙産業特有の要求事項が盛り込まれた「JISQ9100」にグレードアップさせ、試験所のマネジメント規格「ISO/IEC17025」の認定も受けた。

この2つの規格認定が前提条件だったNadcapの取得は、材料試験所として国内で7社目。同認証について、Nadcap日本事務所（愛知県春日井市）の担当者は「高度な専門知識や技術が必要でハードルが高い」と指摘する。

従来からの研究開発用の材料試験から、製品出荷ベースでの受注が可能となり、特に国内で2社しか認定されていない疲労試験は注力分野。エンジン関連を中心に国内重工業大手との取引拡大を狙う。航空機エンジンの課題とされる軽量化、高温化対策の研究にも取り組む考え。

また、より厳しい品質が求められる航空機産業の国際認証を受けたことで、「他産業に取引を広げる足がかりにもなる」と木口部長。将来的にエネルギーや電気自動車での受注獲得も目指している。

03年に品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」を取得。09年には、航空宇宙産業特有の要求事項が盛り込まれた「JISQ9100」にグレードアップさせ、試験所のマネジメント規格「ISO/IEC17025」の認定も受けた。

Nadcap
ボーイング、エアバス、ロールスロイス、GEなど航空機・エンジンメーカーが参加する国際機関が認証。熱処理、溶接、非破壊検査などの特殊工程の製造に必須条件となっている。

ただ、取得を目指す企業も一部にとどまる。」と指摘する。Nadcap取得により、従来の研究開発用の材料試験から、製品出荷ベースでの受注が可能となり、特に国内で2社しか認定されていない疲労試験は注力分野。エンジン関連を中心に国内重工業大手との取引拡大を狙う。航空機エンジンの課題とされる軽量化、高温化対策の研究にも取り組む考え。

また、より厳しい品質が求められる航空機産業の国際認証を受けたことで、「他産業に取引を広げる足がかりにもなる」と木口部長。将来的にエネルギーや電気自動車での受注獲得も目指している。

Nadcap
ボーイング、エアバス、ロールスロイス、GEなど航空機・エンジンメーカーが参加する国際機関が認証。熱処理、溶接、非破壊検査などの特殊工程の製造に必須条件となっている。